

うない通信

国立大学法人琉球大学ジェンダー協働推進室 ニュースレター Vol.17 2021年3月発行

「スキルアップセミナー」をオンラインで開催しました

令和2年度は、研究推進課、研究企画室、ジェンダー協働推進室の共催で、令和2年8月から令和3年1月にかけて、計5回スキルアップセミナーを開催しました。

第1回目は、「accept されるための英語科学論文の書き方」と題し、講師に庄子栄美氏（エルゼビア・ジャパン株式会社）をお招きし、令和2年8月7日（金）に開催しました。論文を出版する立場から論文投稿後のプロセスの一つである査読のチェックポイントや出版理論、論文を英語で投稿する重要性や適切なジャーナルの選択をするためにハゲタカジャーナルを見分ける方法等について講演いただきました。

第2回目以降は、本学の木暮 一啓理事・副学長（企画・研究担当）が講師を務める「木暮セミナー」として開催しました。

第1弾『「科研費申請を通すために」～科研費申請書の書き方～』（令和2年9月18日（金））では、ご自身の申請経験や書き方の具体例を挙げながら、採択される申請書のコツやポイントについて解説いただきました。具体的でわかりやすい内容は大変好評で、参加できなかった方々から追加開催の要望も多かったことから、急遽2回目を開催（令和2年9月28日（月））しました。

第2弾「人前でしゃべるといふこと」（令和2年12月7日（月））では、プレゼンテーションをテーマに、人前で話す際の留意点や心得についてお話いただきました。学会やセミナーといった場面での研究発表を想定し、「原稿を読むことは恥ずかしいことではなく大事なこと」、「印象的な発表のための方法」といった実際に行われた発表の例が示されたとともに、様々な場面での人とのコミュニケーションの取り方とその重要性についてもお話がありました。

第3弾「大学院は大学とどう違うのか」（令和3年1月28日（木））は、若手研究者や大学院生を主な対象に開催されました。大学院とはどういうところなのか、研究に対する考え方や取り組む姿勢等についてお話が展開され、研究活動を続けキャリアを築いていくことを考える講演となりました。参加者からは「学部と院の違いに対して、漠然としたイメージを言語化できるようになった」、「大学院生としての心構えや、実際の研究活動における基本的な考え方等の重要性を知った」といった感想が寄せられました。



科研費申請支援講演会 ～科研費制度改革・新様式に対応した申請戦略～を開催しました

令和2年9月2日（水）から11月5日（木）の期間、研究推進課と研究企画室との共催で、動画配信を行いました。

ロバスト・ジャパン株式会社の中安豪氏を講師にお迎えし、近年の科研費の動向や令和3年度申請の概況について、変更項目や科研費の研究種目別採択件数の推移等、詳細なデータを基に解説していただきました。

当初の予定を延長して配信され、190名を超える教職員が視聴しました。



リーダーシップ研修「英語力をつけるということ」を開催しました

令和3年2月19日(金)、リーダーシップ研修の一環として、研究者として必要とされる英語力を身につけることを目的に木暮理事による3回シリーズの第1回目『英語を使うということ～私の経験』が研究推進課、研究企画室との共同でオンラインで開催されました。教員・研究者を対象に、32名と当初の定員20名を超える多くの方に参加していただきました。講師に木暮理事(企画・研究担当)、山平教授(研究推進機構副機構長)、喜納教授(ジェンダー協働推進室室長)の3名をお迎えし、参加者との双方向による対談形式にてセミナーが行われました。

「英語を使うようになった経験」「自身の英語力で何とかやっていけると思えるようになったのは」「英語力向上のために何をしたか」等講師3名の体験談や苦労話が紹介され、現在では英語を使いこなされている講師でも過去の様々な苦労を経て今があるのだと親近感を持ちました。少しの勇気をもってとにかく英語で話かけてみる、リスニングやリーディングを鍛えるために会話でよく使用される慣用句を熟語集等を見て覚える、文法力は必要で英語論文を読む際には論理で意味を決めていく等、すぐに実践できそうな内容が満載でした。参加者からの質問に対し、木暮理事から「英語を学ぶために目的をもつことはよいこと」等のアドバイスが出され、非常に解りやすい充実した1時間30分のセミナーとなりました。

(ジェンダー協働推進室副室長 宮城 一菜)

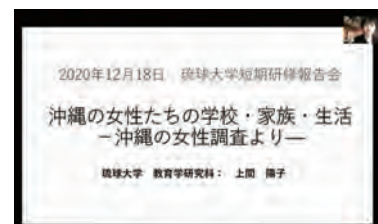
続く第2回「研究者のコミュニケーション英語」は令和3年3月26日(金)に開催予定で、第3回も令和3年度に開催される予定です。



女性教員短期研究専念制度 報告会を開催しました

令和2年12月18日(金)に、女性教員短期研究専念制度利用者による報告会をオンラインで開催し、16名が参加しました。報告会では、実際に平成30年度に制度を利用された大学院教育学研究科の上間陽子教授から「沖縄の女性たちの学校・家族・生活ー沖縄の女性調査よりー」と題し、制度利用期間中に行われた研究・調査活動の成果と、今後の計画や展望について発表いただきました。

参加者からは、「制度を利用するにあたって、周囲の理解や協力はどのようであったか」といった質問が寄せられ、制度利用への関心の高さが垣間見えました。



男性教職員の育児休業取得促進セミナー 「教えて！イクメンの星！育休はどうしてとるの??」を開催しました

本学の教職員を対象とした「男性の教職員の育児休業取得促進セミナー」を、令和2年12月17日(木)にオンラインと学内会場を繋いだハイブリッド形式で開催しました。(協力:厚生労働省委託事業「男性の育児休業取得促進事業」)

本学では、全ての職員が仕事と子育てを両立し、働きやすい環境を整備するとともに、職員がそれぞれの個性及びその能力を発揮できるよう、一般事業主行動計画を策定しています。その中で、男性教職員が育児支援制度を積極的に利用できるよう、環境整備に努めることを目標に掲げており、今回、初めて男性の育児休業取得促進に関するセミナーを開催し、微力ながら、育児休業取得を検討する職員の後押しができたのではないかと思います。一方で、大学は様々な職種の職員が勤務し一様でない状況の中、経済的なデメリットやキャリア形成への不安を感じていたり、上司の育児休業に対する理解促進を図ることが必要である等、課題も浮き彫りになりました。

育児休業の取得を検討するうえで、職員自身が業務管理を考えておく必要もあり、子育て世代職員の希望と現実が乖離する中で、自身のワークライフバランスの実現に向けて、職場風土の醸成や大学全体として働き方改革を推進していくことが重要であるとの認識を新たにするとセミナーとなりました。



かなさん介護セミナー「コロナ禍での親の介護」を開催しました

令和3年1月18日(月)、介護・暮らしジャーナリストの太田差恵子氏を講師にお迎えし、オンラインで開催しました。セミナーでは、新型コロナウイルス感染症の影響によって「なかなか帰省できず、様子を見ることができない」、「入院／介護施設に入居中の親と会うことができない」といった悩みや、感染予防のための自主隔離措置期間を設ける「2週間ルール」等の事例をお話しいただき、コロナ禍での介護の実情を知ることができました。また、セミナーの後半では「マネジメントも介護」と題し、介護に関するサービスや資金計画等、離れていてもできるマネジメントの方法について理解を深めることができた有意義なセミナーになりました。セミナーには教職員15名が参加しました。



令和2年4月～令和3年3月 主な支援事業

研究活動等支援員制度

育児や介護等のライフイベント中の研究者の教育研究環境を整備し研究力を向上させることを目的に、教育研究支援として研究補助員を配置しています。今年度は研究者10名が採択され、支援員13名を配置しました。

育児サポート・サービス利用料補助事業

教職員の仕事と家庭生活の両立を支援するために、育児サポート・サービスを利用する際の利用料の一部を補助しています。今年度は教員6名が採択され、利用しました。

病児・病後児利用料補助事業

教職員の就業および家庭生活の両立を支援することを目的に、病児・病後児保育を利用する場合の利用料の一部を補助しています。今年度は、教員・研究員6名を採択しました。

女性研究者介護帰省費用補助事業

本事業は、女性研究者の介護を目的とした帰省に際し、航空券代の一部を補助するもので、今年度は5名を採択しました。

英文校閲費用補助事業

女性研究者のキャリアアップを推進することを目的に、学術雑誌への投稿論文や学会発表用の英文校閲に係る費用を補助しました。今年度は1名の教員(医学研究科)を採択しました。

国際学会派遣費用補助事業

女性研究者を対象に、国際学会等に参加するために係る費用の一部を補助しました。今年度は、オンラインで開催される学会に参加する場合の参加費も補助の対象とし、1名の教員(グローバル教育支援機構)を採択しました。



琉球大学女性研究者・リーダー育成基金(うない基金)

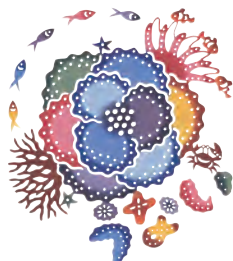


うない基金へのご協力とご厚意に、心より感謝申し上げます。ご寄附いただきました方へ感謝の意を込めまして、ここに御芳名を記載させていただきます。(令和3年1月末日)

寄附者御芳名 ●小山 尚子様

今後とも、ジェンダー協働推進室の活動にご理解・ご協力を賜りますようお願いいたします。

本ニュースレターを発行するにあたってご協力いただきました皆さま、誠にありがとうございました。



国立大学法人 琉球大学 ジェンダー協働推進室

Gender Equality Promotion Office, University of the Ryukyus

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町千原1番地 大学本部1階 TEL:098-895-8675

E-mail:gender@acs.u-ryukyu.ac.jp URL:http://www.gender.jim.u-ryukyu.ac.jp/